

ナウマン通信



2021年
8月6日発行
第16号

大阪市立我孫子南中学校

その時広島には黒い雨が降った

本日予定していた8. 6平和・人権登校日は残念ながら中止となりました。発表の準備に頑張ってくれた実行委員のみなさんには申し訳ありませんでしたが、別の日に発表の機会を設けますので理解をお願いします。1945年、8月6日8時15分、広島に原子爆弾が投下され広島には黒い雨が降りました。その日のことを絶対に忘れてはならないという意義を込めて広島平和式典が行われています。今日はあびなんの教職員みんなでTVで視聴。8時15分に黙とうを捧げました。その後の松井広島市長の「平和宣言」、小学生2名による「平和への誓い」も視聴しました。核の脅威のない持続可能な社会の実現を目指すべきではないかという市長の言葉や被爆者の方の「たとえ小さなことからでも、一人一人が平和のためにできることを行い、かけがえのない平和を守り続けてもらいたい。」という言葉が心に残りました。また、何よりも小学生2名による「平和への誓い」に心打たれました。

以下に全文を紹介します。よく読んでください。

「平和への誓い」

私たちには使命があります。

あの日、広島で起きた悲惨な出来事。

そのことを知り、被爆者の方々の思いや願いを聞き、考え、平和の尊さや大切さを、世界中の人々や次の世代に伝えなければならないのです。

昭和20年（1945年）8月6日午前8時15分。

赤く燃え、真っ黒に焼け焦げてボロボロになった広島の町。

「兄が死ぬより、わしが死んだ方がよかったです。」

大切な人が亡くなった悲しみと生き延びた者の苦しみには終わりがありません。

心に深く傷を負った被爆者は、それでも前を向き「僕ら若人の力によって、きっと平和な世界を築き上げてみせる。」と決意しました。

悲しみや苦しみを抱えながらも、被爆者の方々は生きることを決して諦めず、共に支え合い、広島の町の復興に向立上がりました。

本当の別れは会えなくなることではなく、忘れてしまうこと。

私たちは、犠牲になられた方々を決して忘れてはいけないです。

私たちは、悲惨な過去をくり返してはいけないです。

私たちの願いは、日本だけでなく、全ての国が平和であることです。

そのために、小さな力でも世界を変えることができると信じて行動したい。

誰もが幸せに暮らせる世の中にするなどを、私たちは絶対に諦めたくありません。

争いのない未来、そして、この世界に生きる誰もが、心から平和だと言える日を目指し、努力し続けます。

広島で育つ私たちは、使命を心に刻み、この思いを次の世代へつないでいきます。

令和3年（2021年）8月6日

こども代表 広島市立袋町小学校 6年 伊藤まりあ
広島市立五日市東小学校 6年 宅味義将

残りの夏休みも有意義に過ごしましょう。